



表紙の撮影に臨む横田さくらさん=東京都千代田区

おしゃれ、お出かけ情報、恋の相談…

障害者も女子力アップ

さまざまな障害がある20~40代の女性が、自ら「Co-Co-Life」(ココライフ)女子部が発行された。目指すは「女子力アップ」。おしゃれやお出かけ情報、恋の悩みを話し合う座談会も盛り込んだ。「歩踏み出すきっかけ」と外出や出会いをためらいからな同年代の女性を応援する。

フリーぺーパー発行

東京の20~40代女性が自ら取材

同年代へエール

日曜の午前8時半。 東京都中野区の事務所で、マーク特集の撮影

が始まった。モデルは知的障害のある町田萌香さん(24)。両下肢年

福祉機器のレンタ

もじょひばは2008年

の藤井聰子さん(24)が、メモを取りながらアイシャドーの

塗り方を尋ねる。手で

化粧道具のチップを

持てないときは、どう

すればいいんでしょう

ある人に向けて書けば

番号は書いたが、

「手を使えない友達

もいる。どんな障害の

も集まつて8月B5判16枚、オールカラー

で、マーク特集の撮影

も始まった。モデルは

知的障害のある町田

萌香さん(24)。両下肢

年福祉機器のレンタ

もじょひばは2008年

の藤井聰子さん(24)が、有料季刊誌「Co-Co-Life」(ココライフ)を発行。しかし広告料が入らず13号

の1号をうち全部書き

者支援のNPOから発行。9月には全国の協

力病院などに届けた。今後は広告を募りながら

季刊発行を予定して

いる。藤井さんは普通

ながらアイシャドーの

ライフ」を発行。しか

し広告料が入らず13号

は必要」と強調する。

スタッフは大半がボランティア。「編集部は語あわせ福張ってみ

仕事をしてみたかった

よ」と思った。自分た

た」という先天性骨髄

成不全の星永百合さ

と呼び掛けた。

編集者が資金を出だす。急性散在性脳脊髓

炎症では、横田さく

らさん(23)がモデルとして表紙撮影に臨ん

だ。急性散在性脳脊髓

炎症では、横田さく



フリーぺーパー「Co-Co-Life」(ココライフ)

40代の4人が参加。健常者の男性に付き合ってほしいと言われたときの戸惑い、外見で筆した。東京スカイツリーエリア(東京都墨田区)は分からぬ障害の伝え方:「悩みや体験をの取材では、車椅子でも十分楽しめる」と評されると司会者は「女子力」。ただし、ゆるい傾向があることを楽しむ。自斜のある大画面回廊を手に自信を持つために「動の車椅子を進むのはきちんと考える」とこと、「自力では無理」とが大切だと繰り返した。「自力では無理」ときらんと考える」とこと、「自力では無理」ともがちんと考える」とこと、「自力では無理」とも忘れなかった。

スタッフは大半がボランティア。「編集部は語あわせ福張ってみた」という先天性骨髄に限界はある。でもまた、「取材をしてみる」「夢に咲かせたい」という意図があった。でもまた、「取材をしてみる」「夢に咲かせたい」という意図があった。

◆告白され困惑

「パリアフリーな恋愛テクニック」を第一回にした座談会には20

2012
スラッシュ

さまざまな障害がある20~40代の女性が、自ら障害者も取材して記事を書いたフリーペーパー「Co-Co Life(ココライフ) 女子部」が発行された。目指すのは「女子力」アップ。おしゃれやお出かけ情報、恋の悩みを話し合う座談会も盛り込んだ。「一步踏み出すきっかけを」と外出や出会いをためらいがちな同年代の女性を応援する。

障害者

女子力アップ

表紙の撮影に臨む横田さくらさん=7月、東京都千代田区

日曜の午前8時半。東京都デルを経験した藤井さんの中野事務所で、メートルに「今度は自分たちで」集の撮影が始まった。

モデルは知的障害のある町田萌香さん(24)。両下肢機能障害の藤井晶子さん(29)が、つて8月、B5判16枚、オメモを取りながらアイシャドールカラーの1号をう千一の塗り方を教える。「手で部障害者支援のNPOか(化粧道具)のチップを持ってら発行。9月には全国の協ないときは、どうすればいい病院などに届けた。今後んでしょうか」。メーカー担当は広告を裏りながら季刊発の女性は中指で塗るのが一行を予定している。

「手を使えない友達もいる。にできないことがある。情報交ぶけばいいのか悩んだ」と藤井さんは「普通の女子がいいのか悩んだ」と藤井の場合は必要と強調する。

東京・丸の内のオフィスもともとは2008年、福井街では横田さんと社機器のレンタル・販売会社の経営者が有料の季刊誌「コロライフ」を発行。しかし広脊髄炎の後遺症で足が不自由が入らず13号で休刊し由になつた。3月に退職した。当時の編集者が、読者モた後、車椅子に もよやく

と呼び掛けた。
編集者らが資金を出し合の撮影が始まった。

藤井香さん(24)。両下肢機能障害の藤井晶子さん(29)が、つて8月、B5判16枚、オメモを取りながらアイシャドールカラーの1号をう千一の塗り方を教える。「手で部障害者支援のNPOか(化粧道具)のチップを持ってら発行。9月には全国の協ないときは、どうすればいい病院などに届けた。今後んでしょうか」。メーカー担当は広告を裏りながら季刊発の女性は中指で塗るのが一行を予定している。

藤井さんは「普通の女子がいいのか悩んだ」と藤井の場合は必要と強調する。

東京・丸の内のオフィスもともとは2008年、福井街では横田さんと社機器のレンタル・販売会社の経営者が有料の季刊誌「コロライフ」を発行。しかし広脊髄炎の後遺症で足が不自由が入らず13号で休刊し由になつた。3月に退職した。当時の編集者が、読者モた後、車椅子に もよやく



20~40代 自ら取材、フリーペーパー発行

慣れた。カメラマンから「車椅子をあまり握り締めないで」と声を掛けられ、「どうしたら自然な笑顔になるのか分からなくて」と照れ笑いした。「パリアリーな雰囲気で」とニックを一マナにした座談会には20~40代の4人が参加。健常者の男性に付き合ってほしいと言われたときの椅子の司会者は「女子である戸惑い、外見では分からぬい障害の伝え方。悩みや体験を打ち明け合った。車椅子をあまり握り締めないで」と声を掛けられ、「どうしたら自然な笑顔になるのか分からなくて」と照れ笑いした。「パリアリーな雰囲気で」とニックを一マナにした座談会には20~40代の4人が参加。健常者の男性に付き合ってほしいと言われたときの椅子の司会者は「女子である」と笑った。

おしゃれや恋 一步踏み出すきっかけに

ことを楽しむ、自分に自信を持つためにきちんと考える」ことが大切だと締めくくった。スタッフは大半がボランティア。「編集の仕事をしてみたかった」という先代性骨形成全の永小百合さん(44)は、一般企業の正社員として働きながら夜や休日に取材、執筆した。東京スカイツリーエリア(東京都墨田区)の取材では、車椅子で十分歩けるとの評価。ただし、ゆるい傾向の車椅子回転を手動の車椅子で進むのは「自力では無理」との声も「記憶」の忘れなかつた。

「取材をしてみて『夢を諦めずに頑張ってみよう』と思つた。自分に限界はある。でもまた挑戦したい」と